

Department of Economics for Life and Social Environment ▶ PROGRAM

## Professor Interview

グローバル化が急速に進展する現代社会において、みなさんは国内外の経済問題に関するさまざまなニュースに触れる機会も多いと思います。「経済学」と聞くと、難解な理論や制度を連想するかもしれませんが、生活環境経済学科は、地域・環境・仕事・職場・福祉など、人々の日常生活に密着した視点や思考を重視しています。私たちの身の回りの「生活の質」に関わるテーマを現状・歴史・理論の総合的観点から無理なく学ぶことを通じて、経済学を身近な学問として修得し、みなさんの将来に役立ててほしいと願っています。



齋藤 佳史 教授

### 地域・環境プログラム

都市経済論1・2   環境経済論1・2   社会運動論1・2

住む、働く、買う、遊ぶなど日常生活の舞台となる地域と生活を取りまく環境について学びます。経済学的観点から「地域」と「環境」について学び、暮らしと人生についての考え方を豊かにしましょう。



### 社会経済史プログラム

都市と経済史   福祉と経済史   環境と経済史

いつの時代でも、人間は相互に結びついて社会を形成してきました。そうした結びつきは、経済活動とどのような関係にあるのでしょうか。社会と経済の歴史的関係について、日本と西洋を比較しつつ将来を展望します。



### 福祉・労働プログラム

社会保障論1・2   生活経済論1・2   労務関係論1・2

このプログラムでは、生活の質や共生社会の実現という、未だ「当たり前」ではない社会的なテーマを見据えつつ、労働、社会保障、ジェンダー（社会的性別）などの学修から、課題発見力・解決力の涵養をめざします。



### 経済システム・理論プログラム

現代資本主義論1・2   金融システム論1・2

各国の経済や世界経済を1つのシステムとしてとらえ、その全体の構造や動きについて学ぶプログラムです。今の経済に起きている変化がもつ意味を深く掘り下げ、グローバルな視野から経済問題の解決を考えていきます。



## Student Interview



3年

阿利 マイシャ さん

Maisya Ali

### この学科で得られる学びについて

高校までの勉強と大学で得る学びの最も大きな違いは、能動性にあると思っています。私の所属しているゼミでは、特定のテーマについて他大学の学生とディベートをします。この過程で自分が調べて検討を重ねた主張に対して、チーム内や他大学の学生から指摘を受けます。大学というフラットな環境でこうした経験を積めたことで、自分の考えを魅力的に伝えるプレゼンテーション能力や相手の主張を受け止める柔軟性の両方が鍛えられました。社会人になれば自分の提案が認められず、周りと考えが衝突することもあると思います。そんな時に相手の優れた部分を吸収しながら、自分の主張を完成させていけるようになります。

### 印象に残った授業について

印象深いのは、物的資本の蓄積が経済成長に及ぼす影響についてです。一言でいえばインフラ設備が整っている国ほど発展しているという考え方です。自分の実体験として発展途上国を訪れた際に道路の舗装状態の差を感じていたため、とても納得できる理論でした。経済学の凄いところは自分が日常生活において感じていたことが高名な経済学者によって理論化されていることです。4年間では経済学の一端を学ぶのが精一杯ですが、現代社会で生活していく限り否が応でもついてくるのが経済です。卒業した後も、きっと自分の感覚と学んだ内容が合致する瞬間が訪れると思います。半永久的に自己成長の可能性があるのがこの学問の魅力です。

### My Favorite Items !



### 私だけのこだわり! 学びの必須アイテム

- ① スケジュール帳 | 黒紙で見やすい手書きの手帳がお気に入りです。
- ② 愛読書 | サリンジャーのナインストーリーズからたくさん影響を受けました。